

音声素材管理

***captor***

取り扱い説明書

1. セットアップ .....	3
動作環境 .....	3
インストール .....	3
初期設定 .....	3
2. 取り扱い説明 .....	4
設定 .....	4
システム設定 .....	4
ローカル設定 .....	6
ユーザー設定 .....	9
フォルダ設定 .....	10
メイン画面 .....	11
サウンドのインポート .....	13
検索 .....	13
タイトル情報 .....	14
スケジュール .....	15
番組選択 .....	15
番組の状態 .....	16
番組内容の変更 .....	17
コマンド .....	18
コマンドライン .....	19

# 1. セットアップ

## 動作環境

Windows7/8.1/10 で使用することをお勧めします。  
接続される再生端末の数によって負荷が変わるのでシステム設計時にご相談ください。  
WindowsWDM 対応のサウンドカード

HDD サイズとリニア wav データ量 (1GB=1,000,000,000byte 換算)

	1GB	10GB	40GB	80GB	120GB
48kHz 16bit Stereo	86min	14h	57h	115h	173h
48kHz 16bit Mono	173min	28h	115h	231h	347h
44.1kHz 16bit Stereo	94min	15h	62h	125h	188h
44.1kHz 16bit Mono	188min	31h	125h	251h	377h
32kHz 16bit Stereo	130min	21h	86h	173h	260h
32kHz 16bit Mono	260min	43h	173h	347h	520h

## インストール

1. CD の内容を適当なフォルダにコピーします。
2. (ソフトウェアプロテクト版)  
keyXX.exe を実行して試用制限を解除できます。UAC が有効な場合は右クリックして「管理者として実行」を選択します。  
keyXX.exe はライセンス毎に発行されるものです。第三者に利用されないよう注意してください。  
  
(USB キー版)  
1. USB キードライバをインストールします。詳細は key¥readme.txt を参照してください。  
2. コンピュータを再起動します。
3. captor.exe がアプリケーション本体です。UAC が有効な場合は初回は管理者として実行してください。

## 初期設定

素材を蓄積するサーバーフォルダを決定します。  
サーバーを用意している場合はサーバー側に作成します。  
そのフォルダの中には以下のフォルダが自動作成されます。

conf	設定ファイルなどが保存されます。各ドライブごとに作成されます。
log	半角小文字。stacker などの送出ログが保存されます。送出ログは自動では削除されません。
sched	各種スケジュールデータ等が保存されます。
command	stacker 用のコマンドイベントファイルが保存されます。
ごみ箱	ごみ箱

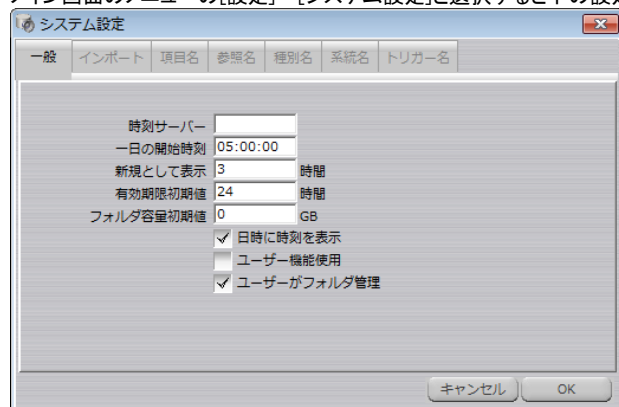
サーバーフォルダ以下のフォルダが参照されます。

## 2. 取り扱い説明

### 設定

#### システム設定

メイン画面のメニューの[設定]→[システム設定]と選択すると下の設定画面が表示されます。



[一般]

時刻サーバー	時刻の基準となる PC の名前を入力します。¥は不要です。
1 日の開始時刻	日付と時刻の調整を行います。050000 を指定すると 1 日は 5 時から 28:59:59 までとなります。 システム運用中に変更すると過去のデータが呼び出せなくなることがあるので変更しないでください。
新規に表示する時間	種別の「新規」で検索されるタイトルの有効期限です。3 時間と入力すると開始日時から 3 時間だけ表示されます。
有効期限初期値	新規にタイトルを登録する際に、開始日時の初期値は現在時刻となりますが、終了日時の初期値が現在時刻から何時間後になるかを設定します。0 の場合は開始/終了日時は初期値では空白となります。
フォルダ容量初期	各フォルダの容量設定の初期値です。容量設定は[フォルダ設定]から変更可能です。
日時に時刻を表示	オフにすると一覧やタイトル情報で日付の未表示され時刻を利用しません。 この場合、内部的には 1 日の開始時刻の次の正時になります。 1 日の開始時刻が 04:30:00 の場合は 5 時、05:00:00 の場合も 5 時として記録されます。
ユーザー機能使用	起動時にユーザーを選択します。 ユーザー機能を使用すると各素材にユーザー名を記録したり、ユーザーごとに使用フォルダを設定したり出来ます。 また captor のユーザーは cart や wavior から参照することもできます。 captor を終了するとログオフ状態となります。
ユーザーがフォルダ管理	一般ユーザーでログオンした場合にもフォルダの作成や削除、自分の使用フォルダ設定ができます。

## [インポート]

外部からサウンドファイルを captor に取り込む際の処理の設定です。



wav 変換	mp2/mp3/wma ファイルを自動的にデコードします。 また指定のサンプリング周波数/形式へのコンバートを行います。
トリム	ファイル前後の TrimLevel 以下のレベルの無音部分をカットし、ファイル先頭 TrimLevel 以上になる位置の Start Margin ミリ秒前から、ファイル終端で TrimLevel 以下になる位置の End Margin ミリ秒後までを切り出します。
ノーマライズ	ファイル中の音量レベルが設定値になるようノーマライズ Peak:音量最大値が指定 db になるよう音量変更 RMS(Max):音量実効レベル RMS の最大値が指定 dbRMS になるよ音量変更 RMS(Average):音量実効レベル RMS の平均値が指定 dbRMS になるよ音量変更 RMS(Calc):Calc/ms ミリ秒より長く Calc/db 以下の相対レベルが続く部分を除外して平均実効レベルを算出し、その値が指定 dbRMS になるよう音量変更 Clip がオフの時は算出した加減率で波形がクリップしてしまう場合に率を調節してクリップしない値にします。
レベル検出	ファイル中の RMS 最大値とピーク最大値を記録します。

各機能のチェックがオンになっていると captor 起動時に機能有効となります。

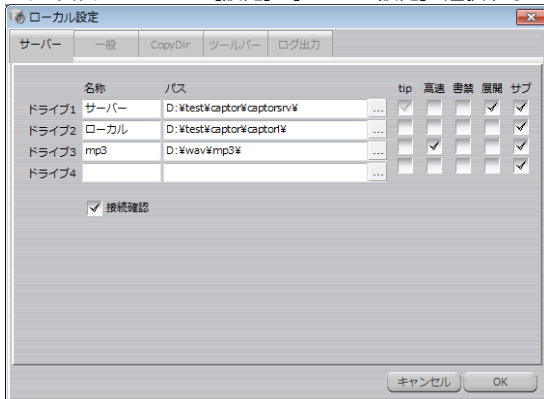
ツールバーの機能オンオフボタンから一時的な機能オンオフが切り替えできます。

## [各種名称設定]

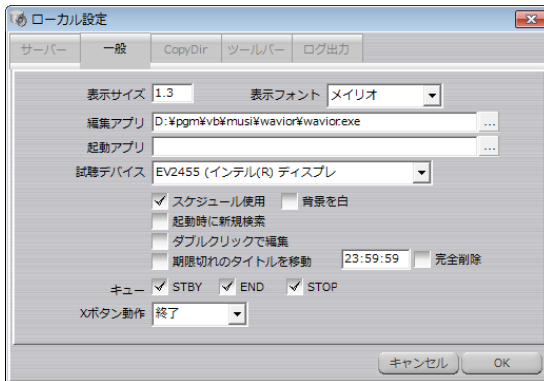
項目名	日付欄やユーザー名の呼称を設定することが出来ます。 (例)ユーザー名→担当者名 ユーザー名、種別、日付、更新日時については名称を空白にすることで項目を非表示にすることが出来ます。
参照名	各タイトルにつけるテキスト欄の呼称。空欄以下は未使用となります。 (例)「担当者」、「アルバム」、「アーティスト」、「素材番号」 etc システム運用中に参照の数を変更するとデータが正しく読めないことがありますのでセットアップ時に使用数を決定してください。
種別名	各タイトルに種別をつけることが出来ます。その名称を設定します。空欄以下は未使用となります。 各行をダブルクリックするとその種別の表示色を選択することが出来ます。 (例)「楽曲」、「ジングル」、「カンパケ」、「CM」 etc
系統名	captor では最大 8 系統の stacker 用スケジュールを作成することが可能です。各系統の呼称を入力します。 空欄以下は未使用となります。
トリガー名	スケジュールのイベントの開始の名称です。初期値では時間どおりに開始されるイベントを TIME、現在の再生が終わり次第開始するイベントを SEQ、接点 1～8 が CNT1～8 となっています。 空欄以下は未使用となります。

## ローカル設定

メイン画面のメニューの[設定]→[ローカル設定]と選択すると下の設定画面が表示されます。

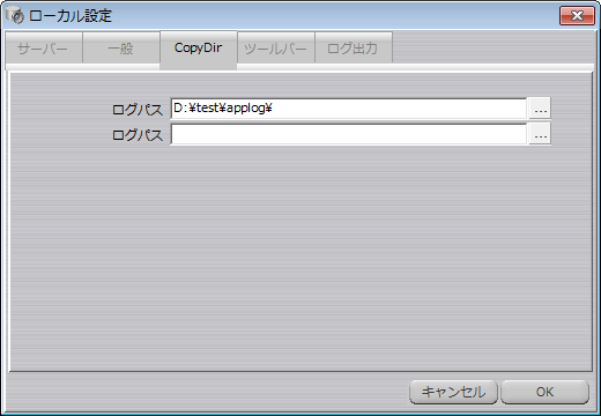


ドライブ	データを保存するサーバーフォルダとその呼称を指定します。 欄の右のボタンでフォルダ選択ダイアログが表示されます。
Tip	オフになっているドライブには tip ファイルや設定の保存を行いません。
高速	高速表示情報はタイトル情報を一度にメモリ情報に取得して、そこからタイトル表示や検索を行う機能です。 表示は高速ですが最新の変更が反映されていないこともあります。conf¥lib.txt にこの高速情報を保存し、この情報が一定時間内に作製された新しい情報であればこれを読み込みます。 ここで[高速]がオンになっているドライブはアプリケーション起動時に高速表示情報取得を自動実行します。
書禁	オンの場合はそのドライブに対しては素材、設定など全面的に変更や保存が不可能になります。
展開	メイン画面のツリーの表示時にドライブ以下のフォルダを開いた状態で表示します。
サブ	サブフォルダの利用を有効にします。
接続確認	captor の起動/終了時にサーバーへの接続が正常か確認し、接続できない場合はメッセージを表示します。

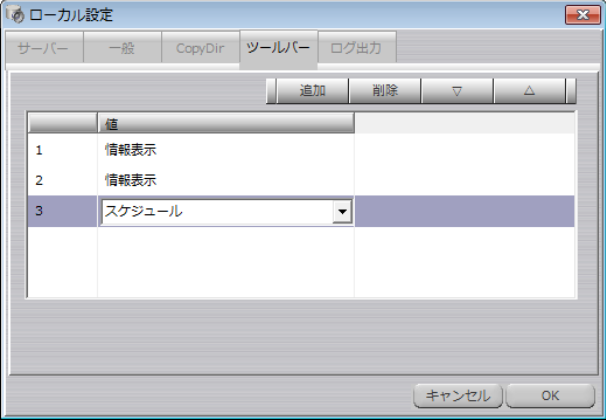


表示サイズ	フェーダーやボタンのサイズを設定します。基本サイズ 1.0 に対する倍率を 0.7～3.0 の間で指定します。
表示フォント	MS Pゴシックかメイリオから選択できます。
編集アプリ	音声編集するときに利用する外部アプリケーション。コマンドラインからファイル名を指定できるアプリケーションに限られます。欄の右のボタンでファイル選択ダイアログが表示されます。
起動アプリ	captor の起動と同時に指定した外部アプリを起動させることができます。
試聴デバイス	メイン画面の再生ボタンで再生する場合に使用するデバイスを選択します。
スケジュールを使用	オフにするとメニューのスケジュールやスケジュールに必要なフォルダを表示しません。
背景を白	スケジュール画面の背景色を黒から白に変更します。
起動時に新規検索	アプリケーション起動時に自動的に新規タイトルの検索を行います。
ダブルクリックで編集	メイン画面のリストでダブルクリックしたタイトルを編集ソフトに送ります。オフの場合は情報表示となります。
期限切れタイトルを移動	タイトルの終了日時を過ぎたタイトルを自動で「ごみ箱」種別に移動します。指定時刻に毎日一度確認を行います。 [削除]が有効になっている場合はごみ箱に移動ではなくタイトル削除を行います。
キュー	試聴の際にキューを反映します。 リスト中でキューのあるファイルをクリックすると再生カウンターに[Q]のマークが表示されます。 このマークをクリックすることでキュー範囲内再生のオンオフができます。
X ボタン動作	メインウィンドウの X ボタンをクリックしたときの動作を選択します。

[CopyDir]  
CopyDir アプリの動作ログを監視し、エラーがある場合は警告を表示します。  
2 台の PC まで指定できます。

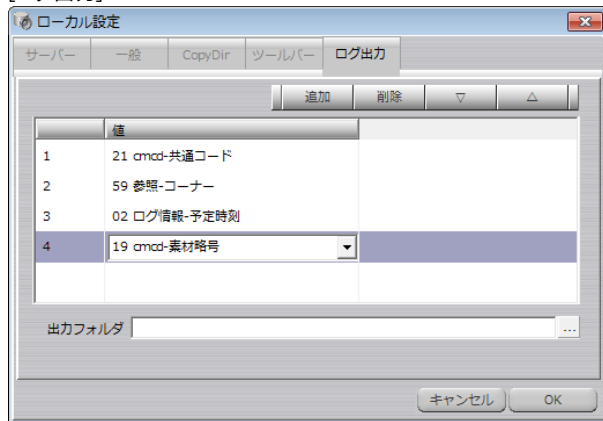


[ツールバー]  
メイン画面右下にツールバーボタンを表示させることができます。



表示を更新	メニューと同じ
スケジュール	同上
素材削除	リスト右クリックメニューと同じ
音声編集	同上
情報表示	同上
ログ変換	同上
WAV 変換 ON	端末ごとの機能オンオフ。 [システム設定]での機能オンオフはシステム全体の初期値で、こちらのオンオフではローカルで一時的に機能オンオフが可能です。
トリム ON	同上
ノーマライズ ON	同上
レベル検出 ON	同上

## [ログ出力]



stacker の送出ログを任意の項目と並び順で再出力することが出来ます。

ファイル形式は元のログと同じ CSV 形式で、[出力フォルダ]に指定されたパスに同ファイル名で出力します。

[出力フォルダ]には変換元であるドライブ 1 の log フォルダを指定しないでください。

[追加]を押して出力したい項目を追加します。

[ログ情報]以外の項目の内容についてはログ変換処理時に音声素材から取得しますので、送出後に素材に変更が加えられた場合は変更後の内容になります。

[システム設定]の[1 日の開始時刻]に指定してある時刻の 10 分後に前日のログを自動的に変換出力します。

captor の起動時に数日分の出力を確認して不足分は再出力します。

またメイン画面の[送出ログ]フォルダから元のログをリストアップし、右クリックメニューの[ログ変換]から同じ処理を手動で行うことも出来ます。



## ユーザー設定

ユーザー名	グループ
musi	管理者
user	一般

ユーザー:

パスワード:

グループ: 一般 追加 削除 変更

フォルダ設定 △ ▽ キャンセル OK

ユーザー機能を使用する場合のユーザー登録を行います。

[ユーザー][パスワード]を入力して[追加]を押すとユーザー追加できます。

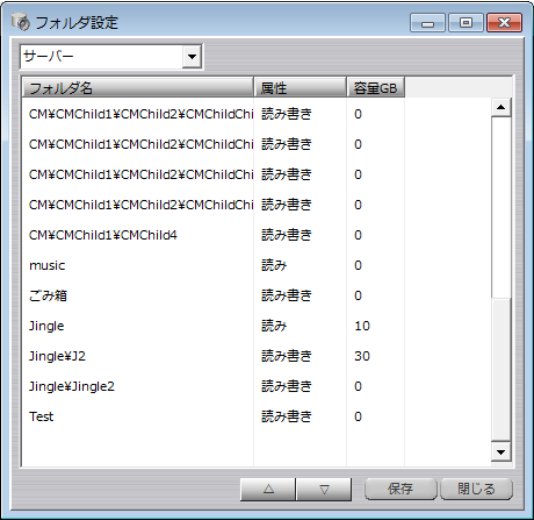
ユーザー種別として[一般][管理者]から選択できます。一般ユーザーは設定画面を表示させることが出来ません。

[フォルダ設定]ボタンではリストで選択されているユーザーが使用できるフォルダを設定します。

△▽ボタンでユーザー表示順を変更できます。

## フォルダ設定

フォルダごとに「隠し」「読み」「読み書き」の属性設定が可能です。  
ユーザー機能を使用する場合、ここで設定したフォルダ属性は設定初期値となります。  
フォルダを作成したあとに、ここで「隠し」にすると全てのユーザーから見えない状態になります。その後で各ユーザーごとにその属性を変更します。  
([ユーザーがフォルダ管理]が有効な場合はログイン状態で[使用フォルダ]メニューから設定)  
ユーザー機能を使用しない場合は自動的にこの属性が反映されます。  
またフォルダ最大容量を GB 単位で指定できます。ここにゼロを指定すると上限は無制限となります。容量制限をする場合は素材インポートや移動時に容量確認を行います。  
△▽ボタンでフォルダ表示順を変更できます。

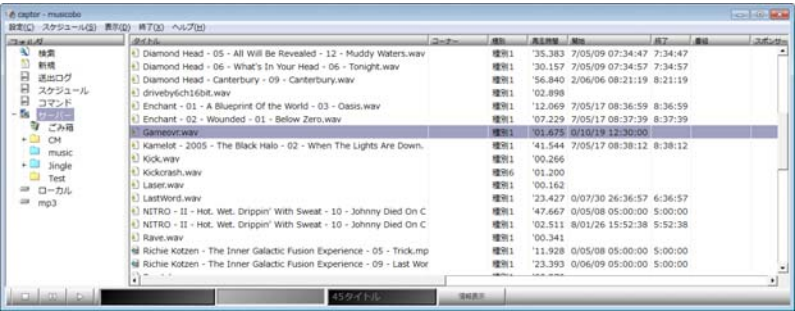


captor アプリケーションは機構上、以下の 2 箇所に設定を保存します。上の設定画面ですべての設定が可能なので、直接編集することはありませんが、すべての端末で設定が必要な項目と共通の項目とがあるので注意してください。

レジストリ	Windows フォルダにある regedit.exe で編集できます。[HKEY_CURRENT_USER¥Software¥musicobocaptor]に保存されます。 ウィンドウの位置、サーバーフォルダ、編集アプリケーションなど端末毎に必要なローカル設定を保存します。 [設定]メニューからの設定項目では[ローカル設定]のみこちらに保存されます。
conf.ini	サーバーフォルダ¥conf¥conf.ini に保存されます。各端末の共通の設定項目です。 システム設定の内容を保存します。

一部設定はアプリケーション再起動後に有効になります。

# メイン画面



メニューには[設定]、[スケジュール]、[表示]があります。  
[設定]をクリックすると前述の設定メニューが表示されます。[スケジュール]をクリックすると後述のスケジュール画面が表示されます。

画面左がフォルダのツリー画面です。フォルダはカテゴリとも呼ばれます。右クリックから以下の機能が利用できます。

作成	そのドライブ/フォルダ以下に新規フォルダを作成します。
高速情報読込	高速情報表示のためのタイトル情報の(再)読込を行います。
情報補完	サウンドファイルのみで tip ファイルの存在しないタイトルに関して tip ファイル作成を行います。

削除	そのフォルダを削除します。タイトルが含まれている場合は削除できません。
----	-------------------------------------

画面右部がタイトル一覧のリストになります。

検索	これをクリックすると検索画面が表示されます。
新規	検索画面が表示され、新規に登録されたタイトルのみが自動的に検索出力されます。
送出口ログ	stacker の作成する送出口ログが一覧表示されます。タイトル一覧をダブルクリックすると選択したログがメモ帳で開きます。
スケジュール	保存されているスケジュールデータが表示されます。 タイトル一覧をダブルクリックすると選択したスケジュールがメモ帳で開きます。
ごみ箱	削除されたタイトルが一時保存される種別です。Windows のごみ箱とは別のものです。 このごみ箱から削除されると実際のデータの削除されます。元に戻す場合はタイトル一覧からドラッグ & ドロップで適当な種別に移動します。日付により自動でごみ箱に入った素材については日付を変更する必要があります。
(ユーザーフォルダ)	ユーザーが作成したフォルダが表示されます。フォルダを作成するには任意のドライブを右クリックして「作成」を選択します。フォルダ名の先頭の文字にはスペースや！などの記号は使用しないでください。

タイトル一覧に表示されるサウンドファイルをダブルクリックすると次項の画面が表示されます。

素材削除	ごみ箱に移動されます。ログやスケジュールはごみ箱に移動されずにデータが削除されます。リスト上で Ctrl や Shift による複数選択状態で実行可能です。
音声編集	設定されている編集アプリケーションに直接サーバーのサウンドデータを送ります。 編集アプリケーションからはスケジュールに使用されているかどうかの確認ができないのでアプリケーションから直接上書き保存することはなるべく避けてください。 サーバーから直接再生することになるので負荷が大きい場合は適当なローカルのフォルダにコピーして編集アプリケーションのほうからそのファイルを開いてください。wavior にはサーバーのファイルを自動でローカルコピーする機能があります。 編集して作成したファイルを別タイトルとして新規に登録する場合はインポートを行います。
情報表示	音声素材は情報画面が表示されます。ログなどに関してはメモ帳でデータが開かれます。
ログ変換	ログを選択した場合はログ変換を手動で行うことが出来ます。リスト上で Ctrl や Shift による複数選択状態で実行可能です。

フォルダ間で移動する場合はドラッグ&ドロップでツリー画面内のフォルダにドロップします。  
既定の日数以内のスケジュールに使用されているタイトルは削除や移動ができません。異なるドライブ間や書き込み禁止のフォルダからは移動ではなくコピーされます。

画面下の再生ボタンで検聴ができます。タイトル画面で選択されているタイトルが再生されます。  
キュー設定がされている場合は、キューのあるファイルをクリックするとQ マークが表示されます。これをクリックすると範囲内再生のオンオフが可能です。

タイトルリストからほかのアプリケーションやエクスプローラーなどにドラッグ&ドロップすることができます。

メニューの[表示]からは以下の機能が利用できます。

更新	表示されているフォルダの内容を更新します。
常に際前面に表示	ウィンドウを常に際前面に表示します
高速表示	高速情報読込済みの場合、これがチェックされているとメモリ上のタイトル情報から表示を行います。表示は高速ですが最新の変更が反映されていないこともあります。
容量確認	設定されているドライブの残り容量を表示します。
一覧をファイル出力	リストに表示されているタイトル情報を csv ファイルに書き出します。

## サウンドのインポート

既存のサウンドファイルを取り込む場合はエクスプローラーなどからツリー画面のフォルダにファイルをドロップします。  
元のファイルは残され、サーバーフォルダにコピーが作成されます。WAV 変換やノーマライズの設定がされている場合はここで処理されます。  
他に captor.exe へのショートカットにサウンドファイルをドロップすることでも登録が可能です。  
Windows の「送る」機能も利用できます。(コマンドラインインポート)

captor で利用できるサウンドファイルは動作環境にもよりますが wav、mp1、mp2、mp3、wma、asf、mpg ファイルなどです。  
再生エンジンは多種のファイルへ形式への対応と頭出し速度向上を実現するために、拡張子のみでファイル種別を判断します。  
かならず正しい拡張子をつけてください。

## 検索

検索はすべて AND 検索となるので、条件を多く入力するほど結果件数は少なくなります。  
tip ファイルの作成されていないタイトルについてはうまく検索されないことがあります。  
タイトルや参照欄では入力した文字を含むタイトルが検索出力されます。

高速情報読み込み済みの状態で[高速表示]がチェックされている場合はメモリ上のタイトル情報から検索します。  
処理は高速ですが最新の変更が反映されていない場合もあります。

## タイトル情報



ドライブ	そのタイトルが存在するドライブ
フォルダ	タイトルを保存するフォルダです。別のフォルダを選択して OK を押すと移動されます。
種別	タイトルの種別。任意に選択できます。
タイトル	ファイル名です。拡張子はつけてください。 ファイル名に使用できない記号を入力した場合は自動で全角起動に差し替えられます。 文字数は最大 64 文字です。
(サウンド情報)	サウンドの形式や再生長が表示されます。更新日時はサウンドファイルのファイル最終更新日時です。
Peak/RMS	リニア wav ファイルの場合は素材中の最大レベル、最大標準レベルが表示されます。その右のボタンで検出できます。
開始/終了日時	タイトルの有効期限の開始/終了日時です。期限切れタイトルを移動する機能以外では参照されません。 欄の右の[...]ボタンで日付選択ウィンドウが表示されます。このカレンダーでは日付をダブルクリックすると選択となります。 ウィンドウの大きさを変えるにはウィンドウの枠の部分で右クリックして表示倍率を指定してください。
削除禁止	タイトルの移動や削除を禁止します。サウンドファイルをロックするわけではないので、他のアプリケーションなどからは削除されます。
参照	自由に入力できる欄です。なるべく文字データ欄として利用してください。数値を入力すると正しく検索できなくなることがあります。 数値を入力したい場合は桁数や大文字/小文字を統一してください。 文字数は最大 127 文字です。
ユーザー	ユーザー機能を使用する場合はユーザー名を入力できます。

サウンドファイルに付随する文字情報はサウンドファイル名+.tip というテキストファイルに記録されます。

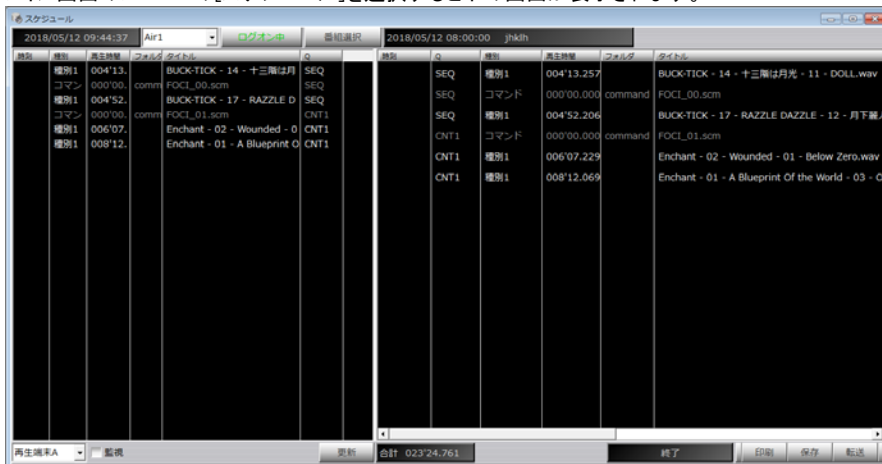
変更した場合は OK を押します。それ以外ではキャンセルを押してください。

OK を押すと tip ファイルの内容が更新されます。tip ファイルがないタイトルについてはここで作成されます。

既定日数以内のスケジュールに使用されている場合はタイトルとフォルダの変更はできません。

## スケジュール

メイン画面のメニューの[スケジュール]を選択すると下の画面が表示されます。



画面左上には現在時刻が表示されます。

その右にはスケジュールする対象のチャンネルが表示されます。

captor では一番組のスケジュールは複数の端末で同時にはできません。ログオンできない場合はほかのユーザーがこの番組のスケジュールを行っている場合なので監視のみが可能になります。

この画面が表示されると自動的にログオン状態になるので、監視のみを行い他の端末からスケジュールが可能な状態にしたい場合は「ログオン中」の表示をクリックしてください。表示が「監視モード」となると他の端末からスケジュールが可能になります。

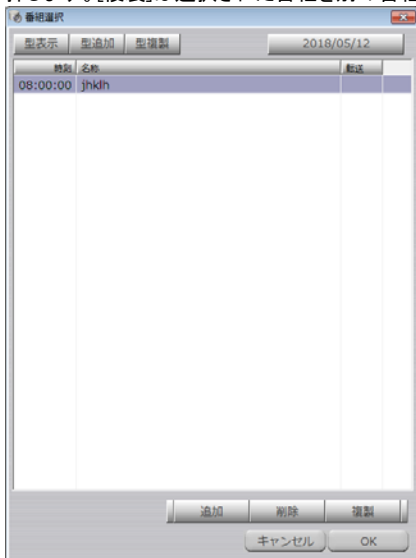
[印刷]ボタンでは番組内容が通常使用されるプリンタで印刷されます。

### 番組選択

[選択]ボタンを押すと以下の画面が表示されます。日付の表示されたボタンを押すとカレンダーが現れます。スケジュールしたい日付を選択します。

その日付にすでに作成されている番組一覧が表示されます。既存の番組を変更したい場合はその番組を選択し[OK]を押します。

新規に作成する場合は[追加]を押します。作成したい番組の開始時刻を 123000 形式で入力/名称を入力します。作成された番組を選択し[OK]を押します。[複製]は選択された番組を別の番組として複製します。



型は番組のテンプレートです。チャンネルの区別なく共通で管理作成されます。

[型表示]を押すと作成されている全ての型が表示されます。どれかひとつを選択して[複製]を押すと型を番組として複製することが出来ます。

型を別の型として複製する場合は[型複製]を押します。

新規に型を追加する場合は[型追加]を押します。

内容の編集に関しては型と番組で区別はありません。

## 番組の状態

番組には2つの状態があります。保存状態/転送済み状態です。

保存状態はスケジュールデータがサーバーには保存されているけれども再生ソフトからは参照されない状態です。

転送済み状態は再生ソフトからも参照できます。

スケジュール画面の[保存][転送]ボタンで、どちらかの状態で保存することが出来ます。型は転送することはできません。



## 番組内容の変更

メイン画面のタイトル一覧からスケジュールしたい素材をスケジュールリストにドロップします。  
一番目に設定されているドライブに含まれる素材のみ使用可能です。  
Shift や Ctrl キーを利用して複数選択し、ドロップすることもできます。  
スケジュールリスト内で順序を入れ替える場合もドラッグ & ドロップで行います。2 つのリスト間でも同様です。

ドロップしたタイトルをクリックすると時刻や Q を選択できるようになります。Q は選択ボックスで選択します。  
時刻は 123000 のように入力すると 12:30:00 と自動的に変更されます。  
接点入力や、再生終了次第再生のアンタイムのイベントでも時刻は入力してください。  
Q は TIME、SEQ、CNT1～8 のうちから選択します。この呼称はシステム設定で変更できます。  
TIME は時刻通りのイベント、SEQ は前の再生が終了次第発行されるイベント、CNT は接点入力ボックスなどからの制御で発行されるイベントです。  
ソフトウェア上は最大で 8 チャンネルの接点入力が利用できるようになっていますが、接点入力ボックスの仕様によってこれ以下になることもあります。  
イベントを削除する場合は削除したいイベントを選択して右クリックメニューから[削除]を実行します。

スケジュールが完成したら[保存]または[転送]ボタンを押します。  
時刻の順序が逆であったり、時刻が入力されていない場合は「スケジュールが不正です」というメッセージが表示されます。

一番右のリストは再生ソフトの画面の状態です。定期的に自動で更新されますが、すぐに更新したい場合は[更新]ボタンを押してください。  
再生ソフトが不正に終了している場合はリストを更新しても内容は変化しませんので、あくまでもイベントが正しく流れているかどうかの監視ということになります。[監視]がオンになっていると、一定時間内容が更新されない場合に警告メッセージを表示します。

## コマンド

音声ファイルと同様にコマンドをスケジュールに挿入することが出来ます。  
コマンドは主に外部スイッチャなどの制御に利用されます。対応するハードウェアや動作は再生ソフト側の仕様に依存します。

サーバードライブの command フォルダ内に適当な名前+.scm という空のテキストファイルを作成します。

(例)CD プレイヤーにフェードイン.scn

内容は以下の例のように編集します。

```
[conf]
OutFade=1
OutTime=-3
InFade=1
InTime=4
InCh=3
FOMS=2500
FIMS=1500
```

OutFade、InFade は 0 または 1 を設定します。フェードする場合は 1 です。

このコマンドを 12:00:00 に実行するようにスケジュールすると  
11:59:57 秒にフェードアウトコマンド送信(指定時の 3 秒前: OutTime)  
12:00:00 に再生中であれば再生停止/次の再生が必要であれば再生開始  
12:00:04 に CH3 に切り替え/フェードイン(指定時の 4 秒後: InTime)  
となります。

FOMS/FIMS はフェードの長さをミリ秒単位で指定します。MIDI フェード機能などコマンド毎にフェード長さを指定できる場合のみ有効です。  
フェード長さがスイッチャ側で固定である場合は参照されません。  
OutTime/InTime はコマンド実行のタイミングをはかることに参照される数値ですが、FOMS/FIMS はフェード動作の制御のための数値です。  
FOMS=2500、OutTime=-3 の場合は指定時刻の 3 秒前にフェード開始し、指定時刻の 500 ミリ秒前にフェード終了することになります。

以上はは特殊な内容です。多くの場合は以下のようになります。

カットアウトカットインで CH2 に切り替え

```
[conf]
OutFade=0
OutTime=0
InFade=0
InTime=0
InCh=2
FOMS=0
FIMS=0
```

3 秒フェードアウトカットインで CH4

```
[conf]
OutFade=1
OutTime=-3
InFade=0
InTime=0
InCh=4
FOMS=3000
FIMS=0
```

InCh=0 と指定することで全 ch オフにすることもできます。

## コマンドライン

captor.exe へのショートカットにサウンドファイルをドロップすると、インポートモードでアプリケーションが起動します。

(例) C:\musicobo\captor.exe C:\sound\test1.wav

画面表示の座標位置を指定することも出来ます。

(例) C:\musicobo\captor.exe X=100 Y=200

パラメーター

X=数字	起動位置の X 座標 ピクセル単位
Y=数字	起動位置の Y 座標 ピクセル単位
W=数字	起動時の画面横幅 ピクセル単位
H=数字	起動時の画面高さ ピクセル単位

C:\musicobo\captor.exe WindowState=1

とすると最小化起動します。

コマンドラインは右クリック→[送る]やバッチファイルなどからも利用することが出来ます。